平成27年1月号(通巻第106号) 平成 27年1月30日(金)



## 島高だより 平成27年1月号

(通巻 106 号) 長崎県立島原高等学校 編集:情報図書部

#### 校長随想 湧水抄

## 「本との出会い」二題

校長北浦剛資

島高牛の「S」は「Smile」のS。1冊の本が、人牛に大きく関わることがある。

#### ■背表紙のタイトルから

しま地区の高校勤務の頃の話。国語教師として3年生を担当していた。クラスに、 喫煙で指導歴のある男子生徒がいた。授業態度も決して良くはなかったが、ある日の授業 で板書を命じたところ、予想外に立派な字を書いた。思わず「字が上手だねぇ」と褒めた ところ、そんな経験がなく嬉しかったのか、その後の国語の授業への取組が意欲的になっ た。夏休みの課題として読書感想文を課したが、本の内容というよりも1冊の本との出会 いを臨場感たっぷりに書いてきた。曰く、「僕は図書室で本を探していた。別に何でもよ かったが、背表紙を眺めながら移動していたら、1冊だけ気になる本があった。通り過ぎ た後もう一度戻って手に取ってみると、なぜか懐かしい感じがした。僕が見つけるのをそ の本が待っていたような気がした。……」と、出会いの場面を詳細に描写していたその表 現力の確かさを評価して学級代表に選んだら、学年代表から学校代表に選ばれ、何と県コ ンクールで入賞するという快挙を果たした。1冊の本から広がる人生もある。

#### ■38年ぶりの再会

学生時代の話。立ち読みするため習慣的に寄っていた大学前の書店、たまたま同じ年齢 だったので気になり手に取った 1 冊の文庫本、表題は『二十一歳の父』、作者は曾野綾子。 その後大和田獏主演でTVドラマにもなったが、小説の内容よりも、裏表紙に書かれたキ ャッチコピーに関心がいった。記憶は不確かだが、主人公の生き方を示す「気負いも絶望 もなく淡々と生きる」の一節が心に残った。その後教師になって30数年、ふと思い出し て島高図書室の福島さんに相談すると、間を置かず県立図書館にありましたよと取り寄せ てくださった。早速裏表紙を確認すると、自分でも驚く程そのままの言葉が印刷されてい た。いつの間にか生き方の背骨になっていたのかと、改めて感慨に浸った。

2日(月)

## 2月の主な行事予定

- 雲仙100年の森卒業記念植樹 10日(火) 13日(金) 学年末考査時間割発表
  - PTA評議員会·専門委員会
- 14日(土) 土曜講座(全学年)

## 主な部活動実績

## 【レスリング部】

第25回ひむか杯 JOCジュニアオリンピック レスリング競技九州予選会

カデットの部

100kg級 濱本 大德 石橋 智啓 6 9 kg級 7 6 kg級 第3位 岩永 昂樹 6 0 kg級 第3位 喜多 豊和

5 4 kg級 第3位 金子 功誠

## 【剣 道 部】

第15回全国高等学校 剣道よさこい高知国体開催記念大会

男子団体 優 女子団体 第2位





# 乗! がんばれ67回生!

推薦入試は秋から始まっていますが、大学入試センター試験とともに、 本格的な受験シーズンがスタートしました。今年はインフルエンザの流行 が例年に比べ随分早く、1・2年生に猛威を奮う中、本校3年生はほとんどその影響 を受けることなく長崎大学と長崎県立大学シーボルト校で実施された試験にチャレン ジしました。出発前に行われた「出陣式」では、校長先生と本田PTA会長から激励 をいただき、下級生や先生方、保護者の方々に見送られて学校を後にしました。

19日(月)には自己採点を行いました。現在生徒たちは特別編成授業のもと、意欲 的に学習に取り組んでいます。国公立大入試は前期試験が 2/25、後期試験が3/12 が中心で、私立大学入試は1月末~2月上旬、看護学校もほぼ同時期に各地で試験が 実施されます。67回生全員が、今の自分にとってベストな進路を選択できることを 願っています。保護者の皆様には、生徒たちの健康管理など、もうしばらくご協力を お願いいたします。



進研マーク模試(2年~8日)

7日(土) 高校島原半島美術展(~11日) 土曜講座(1・3年)

平成27年1月号(通巻第106号) 平成 27年1月30日(金)

# 



今年度最後となる1/20(火)の地学講座では、これまでの1年間で学んできた内 容を1人ひとりがまとめ、研究発表会を実施しました。

「島原半島ジオパーク・龍石海岸について」「島原の歴史を表す地層の形成」「深江 の地名の由来となった断層について上「田町の供養塔にまつわる歴史」などのテーマで、 写真や地図などを取り入れ、それぞれが工夫を凝らして作ったパワーポイントの資料を 用いて発表に臨んでいました。

発表後は1人ずつに対して、講師の寺井 邦久先生(諫早青少年自然の家職員)に講評 を頂きました。内容に関してだけでなく、パワーポイントの使い方や発表の手法などに ついても教えていただき、非常に勉強になりました。

今年度実施された地学講座および研究発表を通じて、1年生理数科の生徒達は、2年 生での課題研究の参考になる良い取り組みができたようです。寺井先生、お忙しいとこ ろ1年間熱心にご指導いただき、本当にありがとうございました。



## 情報モラルマナー教育

~インターネットが高校生に及ぼす危険性~

講師 九州産業大学 経営学部 産業経営学科



生徒感想

インターネットが怖いなと改めて感じました。インターネットは便利で簡単に使うこ とができるし、使い始めるとなかなか止められず、ついつい依存してしまいます。しか し、今回の講話で個人情報やプライバシーが漏れたり、詐欺にあったりと、自分が思っ ているよりもインターネットには危険がたくさんあることがわかりました。特に、SN Sは危険だなと思いました。大学生が安易にカンニングしたことを書き込んだ人の話が ありました。不正をしたことを書き込むこと自体が間違っているとは思うけれど、その 書き込みをして1時間のうちに、まったく見知らぬ人から個人を特定され、瞬く間にそ ▮ の情報がネット世界に流れてしまうなんて想像もしませんでした。ただただ個人的なこ とをつぶやいたつもりで書き込んだものが、どこの誰が書き込み、今どこにいるのか、 そして、その人の個人情報が1時間のうちにどんどん暴かれてしまい、大学退学を迫ら れる事態に陥ってしまったという話でした。また、今どこにいるのかが特定されるため に、留守がわかって空き巣にも入られる可能性があると言われ、とても恐ろしいと思い ▮ ました。仲間内だけのやりとりだと安易に考えていましたが、まさかまったく見知らぬ ▶ 人からこれほどまで個人情報を暴かれ、人生がめちゃくちゃにされてしまう危険性がす ぐ目の前にあるのかと突きつけられたような気持ちがしました。今後はインターネット が危険なものだという前提に立って、つぶやくことそのものを選ばなければならないと 思いました。最後に、福田先生が「無知は罪」という言葉で締めくくられました。今回 の講話を機にきちんとした正しい知識を知る努力をしたいと思いました。

1月27日(火)に第6回まゆやまロード健脚大会が実施されました。厳しい 冷え込みもなく、健脚を競い合うには最高のコンディションでした。生徒たちは グラウンドを元気よくスタートし、仲間と共に励まし合いながら 18.7 kmの長い 道のりをゴール目指して一心不乱に突き進んで行きました。まゆやまロードはア ップダウンが多く、まさに「体力の限界への挑戦」にふさわしいコースですが、 生徒たちは疲労困ぱいになりながらも日頃の体育の授業や運動部活動で培った 体力を十分に発揮し、最後まで頑張り抜きました。ゴールした瞬間の仲間と讃え 合う姿や達成感に満ち溢れた笑顔がとても印象的な一日でした。

また、前日の下ごしらえから始まり翌日の大会にかけて、たくさんの保護者の 皆様のご協力のおかげでおいしい豚汁をいただくことができました。生徒たちは 心のこもったおいしい豚汁に舌鼓を打ち、疲れを癒すことができました。保護者 の皆様ありがとうございました。

